

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
美術科 日本画専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史Ⅰ	○	◎	○	
			日本美術史Ⅱ	○	◎	○	
			美術解剖学	◎	○		
			東洋美術史Ⅰ	○	◎	○	
			東洋美術史Ⅱ	○	◎	○	
			西洋美術史Ⅰ	○	◎	○	
			西洋美術史Ⅱ	○	◎	○	
			彫刻Ⅰ	◎	○		
			彫刻Ⅱ	◎	○		
2	必修	基礎科目	美学		◎	○	◎
			近代美術史	○	◎	○	
3	必修	基礎科目	色彩論	○	◎	○	
			コンピューターグラフィックス	◎	○		
1~4	必修	基礎科目	工芸技法	◎	○	○	
現代美術演習			○	◎		○	
1	選択	集中履修科目	デザインⅠ		◎		○
			デザインⅡ		◎		○
			デザインⅢ		◎		○
			工芸Ⅰ		◎		○
			工芸Ⅱ		◎		○
2	選択	集中履修科目	工芸Ⅲ		◎		○
			工芸Ⅳ		◎		○
			日本画(一)Ⅰ	○	○		
1	必修	専攻科目	日本画(一)Ⅱ	○	○		
			日本画(二)Ⅰ	○	○	○	
2	必修	専攻科目	日本画(二)Ⅱ	◎	○	○	
			日本画(三)Ⅰ	◎	◎	◎	○
3	必修	専攻科目	日本画(三)Ⅱ	◎	◎	◎	○
			日本絵画史特講		◎	○	○
4	必修	専攻科目	日本画(四)Ⅰ	◎	◎	◎	◎
			日本画(四)Ⅱ	◎	◎	◎	◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ

美術科 油画専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする					
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。		
年次	区分		授業名					
	必修/選択							
1 2 1 2 3	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○			
			日本美術史Ⅰ	○	◎	○		
			日本美術史Ⅱ	○	◎	○		
			美術解剖学	◎	○			
			東洋美術史Ⅰ	○	◎	○		
			東洋美術史Ⅱ	○	◎	○		
			西洋美術史Ⅰ	○	◎	○		
			西洋美術史Ⅱ	○	◎	○		
			彫刻Ⅰ	◎	○			
			彫刻Ⅱ	◎	○			
2			美学		◎	○	◎	
			近代美術史	○	◎	○		
			色彩論	○	◎	○		
3			コンピューターグラフィックス	◎	○			
1 2	選択	集中履修科目	デザインⅠ		◎		○	
			デザインⅡ		◎		○	
			デザインⅢ		◎		○	
			工芸Ⅰ		◎		○	
			工芸Ⅱ		◎		○	
			工芸Ⅲ		◎		○	
			工芸Ⅳ		◎		○	
1 2 3 4	必修	専攻科目	油絵(一)Ⅰ		◎		○	
			油絵(一)Ⅱ		◎		○	
			油絵(二)Ⅰ		◎		○	
			油絵(二)Ⅱ		◎		○	
			版画Ⅰ		◎			
	3		選択	油絵(三)Ⅰ		○		◎
				油絵(三)Ⅱ		○		◎
				版画Ⅱ		○		◎
	4		必修	映像表現	○	◎	○	○
				西洋絵画史特講	◎		○	
4	必修	油絵(四)Ⅰ		○		◎		
		油絵(四)Ⅱ		○		◎		

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
美術科 彫刻専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1 2 1 2 3	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	
			日本美術史 II	○	◎	○	
			美術解剖学	◎	○		
			東洋美術史 I	○	◎	○	
			東洋美術史 II	○	◎	○	
			西洋美術史 I	○	◎	○	
			西洋美術史 II	○	◎	○	
			絵画 I		◎		○
			絵画 II	◎			
2			美学		◎	○	◎
			近代美術史	○	◎	○	
			色彩論	○	◎	○	
3			コンピューターグラフィックス	◎	○		
1 2	選択	集中履修科目	デザイン I		◎		○
			デザイン II		◎		○
			デザイン III		◎		○
			工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
			工芸 III		◎		○
1 2 3 4	必修	専攻科目	彫刻(一) I	◎	◎	○	
			彫刻(一) II	◎	◎	○	
			彫刻(二) I	◎	◎	○	
			彫刻(二) II	◎	◎	○	
			彫刻論 I	◎	◎	○	
			彫刻(三) I	○	◎	◎	○
			彫刻(三) II	○	◎	◎	○
			彫刻論 II	○	◎	◎	
			彫刻史特講	○	◎	○	
			彫刻(四) I	○	◎	◎	◎
彫刻(四) II	○	◎	◎	◎			

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする					
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。		
年次	区分		授業名					
	必修/選択							
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○			
			日本美術史 I	○	◎	○		
			東洋美術史 I	○	◎	○		
			西洋美術史 I	○	◎	○		
色彩論			○	◎	○			
デザイン心理学			◎	◎		○		
建築論			○	◎	○			
専門英語演習A			◎	○	◎	○		
2	3	4	専門英語演習B	◎	○	◎	○	
			1	選択	集中履修科目	絵画 I	◎	◎
2	絵画 II	◎	◎			○		
3	絵画 III	◎	◎			○		
4	彫刻 I	◎	◎					
5	彫刻 II	◎	◎					
6	彫刻 III	◎	◎					
7	工芸 I		◎				○	
8	工芸 II		◎				○	
1	必修	専攻科目	ホルスティックデザイン演習(一)A	◎	○	○		
			ホルスティックデザイン演習(一)B	○	◎			
			形態演習	○	◎			
			描出演習	◎	○			
			色彩演習	○	◎	○	○	
			発想演習	◎	○			
			素材演習	○	○			
			情報演習	○	○			
			2	ホルスティックデザイン演習(二)A	○	◎	○	○
			3	ホルスティックデザイン演習(二)B	○	○	◎	○
			4	デザインプロセス演習	◎	◎	◎	◎
			5	デザイン論	◎	○		
			6	ホルスティックデザイン演習(三)A	◎		○	○
			7	ホルスティックデザイン演習(三)B I	◎		○	○
			8	ホルスティックデザイン演習(三)B II	○	○	◎	◎
			9	ホルスティックデザイン特論(三) I	○	○	◎	◎
10	ホルスティックデザイン特論(三) II							
11	ホルスティックデザイン特論(三) III	◎		○	○			
12	デザインマーケティング	○	○	◎				
13	知的財産権	◎	◎	○				
4	ホルスティックデザイン演習(四)A	◎	◎		◎			
	ホルスティックデザイン演習(四)B	○	○	◎	◎			

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
デザイン科 インダストリアルデザイン専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする					
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。		
年次	区分		授業名					
	必修/選択							
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○			
			日本美術史Ⅰ	○	◎	○		
			東洋美術史Ⅰ	○	◎	○		
			西洋美術史Ⅰ	○	◎	○		
2	必修		色彩論	○	◎	○		
			デザイン心理学	◎	◎		○	
			建築論	○	◎	○		
4	必修		専門英語演習A・B	◎	○	◎	○	
			集中履修科目	絵画Ⅰ	◎	◎	○	
絵画Ⅱ	◎			◎	○			
絵画Ⅲ	◎	◎		○				
2	選択	彫刻Ⅰ		◎	◎			
		彫刻Ⅱ		◎	◎			
		彫刻Ⅲ		◎	◎			
		工芸Ⅰ			◎		○	
1	選択	工芸Ⅱ			◎		○	
		工芸Ⅲ			◎		○	
		工芸Ⅳ			◎		○	
		1	専攻科目	インダストリアルデザイン演習(一)	○	◎	◎	○
デザイン基礎演習	◎			◎	○			
発想演習	◎			◎	○			
材料学演習(複合素材)	◎			◎	○			
材料学演習(プラスチック)	◎			◎	○			
材料学演習(塗料)	◎			◎	○			
材料学演習(木材)	◎			◎	○			
材料学演習(金属)	◎			◎	○			
写真演習	◎			◎	○			
形態論	◎			◎	○			
2	必修			インダストリアルデザイン演習(二)	◎	◎	◎	◎
				コンピュータ演習Ⅰ	○	◎	○	
				インターフェイスデザイン	◎	◎	○	○
				デザインプロセス演習	◎	◎	◎	◎
				機械製図法	○	◎	○	
				家具意匠論	◎	◎	○	
3	必修			近代デザイン論	◎	◎	○	
				インダストリアルデザイン演習(三)	◎	◎	◎	◎
				コンピュータ演習Ⅱ	○	◎	○	
				人間工学	◎	◎	◎	
				デザイン工学	◎	◎	◎	
				製品計画論	◎	◎	◎	◎
4	必修			インダストリアルデザイン演習(四)	◎	◎	◎	◎
				デザインマーケティング	◎	◎	○	◎
				インダストリアルデザイン特論	◎	◎	◎	◎
				知的財産権	◎	◎	○	
		卒業制作	◎	◎	◎	◎		

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ

工芸科

美術工芸学部の目的		広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする							
大学のディプロマ・ポリシー		1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。				
年次	区分		授業名						
	必修/選択								
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○				
			日本美術史Ⅰ	○	◎	○			
			東洋美術史Ⅰ	○	◎	○			
西洋美術史Ⅰ			○	◎	○				
図学			○	◎					
工芸史Ⅰ			○	◎	○				
2	必修	基礎科目	工芸史Ⅱ	○	◎	○			
コンピューターグラフィックス			◎	○					
3			専門英語演習	◎			○		
2			選択	集中履修科目	絵画Ⅰ	◎	◎	○	
					絵画Ⅲ	◎	◎	○	
1					彫刻Ⅰ	◎	◎		
	彫刻Ⅱ	◎			◎				
2	彫刻Ⅲ	◎			◎				
	デザインⅠ				◎		○		
1	必修	専攻科目	デザインⅡ		◎		○		
			デザインⅢ		◎		○		
			工芸演習(一)A		◎		○		
			工芸演習(一)B		◎		○		
			描出演習		◎		○		
			形態演習		◎		○		
			色彩演習	○	◎		○		
			材料学演習(石膏)		◎		○		
			コンピュータ演習Ⅰ	◎	○		○		
			デザインプロセス	○	◎		○		
			伝統文化論A	○		◎			
			伝統文化論B	○		◎			
			工芸概論A		◎		○		
			工芸概論B		◎		○		
2	選択	専攻科目	工芸演習(二)染織		◎		○		
			工芸演習(二)染織		◎		○		
			工芸演習(二)漆・木工		◎		○		
			工芸演習(二)漆・木工		◎		○		
			工芸演習(二)金工		◎		○		
			工芸演習(二)金工		◎		○		
			工芸演習(二)陶磁		◎		○		
			工芸演習(二)陶磁		◎		○		
			デザイン演習Ⅰ	○	◎		○		
			古美術演習	○	◎		○		
必修	専攻科目	現代工芸論Ⅰ	○	◎					
		地域工芸演習Ⅰ(社会研究)	○	◎	○	○			

3	選択	1	工芸演習(三)染織		◎		○
		工芸演習(三)染織		◎		○	
		工芸演習(三)漆・木工		◎		○	
		工芸演習(三)漆・木工		◎		○	
		工芸演習(三)金工		◎		○	
		工芸演習(三)金工		◎		○	
		工芸演習(三)陶磁		◎		○	
		工芸演習(三)陶磁		◎		○	
	必修	現代工芸論Ⅱ	○	◎	○	○	
		コンピュータ演習Ⅱ	○	◎		○	
		デザイン演習Ⅱ	○	◎		○	
		地域工芸演習Ⅱ(産地研修)	○	◎	○	○	
		複合素材演習		◎		◎	
4	選択		工芸演習(四)染織		◎		○
		工芸演習(四)染織		◎		○	
		工芸演習(四)漆・木工		◎		○	
		工芸演習(四)漆・木工		◎		○	
		工芸演習(四)金工		◎		○	
		工芸演習(四)金工		◎		○	
		工芸演習(四)陶磁		◎		○	
		工芸演習(四)陶磁		◎		○	

学部(一般教育科目)カリキュラム・マップ

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする						
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。			
年次	区分		授業名						
	必修/選択								
1	選択	A	哲学Ⅰ	◎					
			哲学Ⅱ	◎					
			文学Ⅰ	◎					
			文学Ⅱ	◎					
			心理学Ⅰ	◎					
			社会学Ⅰ	◎	○				
			社会学Ⅱ	◎		○			
			歴史	◎	○				
			日本国憲法	◎		○			
			人間と文化	◎					
			フレッシュマンセミナー	◎					
			博物館概論	◎		○			
			金沢の文化行政	◎		○			
			キャリアデザイン	◎		○			
2	選択	A	現代ジェンダー論	◎		○			
			文学Ⅲ	◎					
			文学Ⅳ	◎	○				
			心理学Ⅱ	◎	○				
			文化人類学	◎					
			考古学	◎					
			生涯学習概論	◎		○			
			1	選択	B	スポーツ科学	◎		
						物質の科学	◎		
						材料の科学	◎	○	
						科学技術史	◎	○	○
						情報処理	◎	○	
						エコロジー	◎	○	◎
						数理科学	◎		
2	選択	B	生物の科学	◎		○			
1	必修	外国語科目	英語(一)	◎					
2			英語(二)	◎					
3			英語(三)	◎					
4			英語(四)	◎					
1			フランス語(一)	◎					
2			フランス語(二)	◎					
3			フランス語会話(中級)	◎					
4			フランス語会話(上級)	◎					
2			必修	外国語科目	ドイツ語基礎	◎			
					イタリア語基礎	◎			
					中国語基礎	◎			
1			必修	育保科健目体	体育実技(一)	◎		○	
2					体育実技(二)	◎		○	
3					体育実技(三)	◎		○	